

28年12月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成28年12月1日～ 28年12月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は17社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/12月	29/1月	29/2月
入荷動向	スギ	4.2	0.0	0.0
	ヒノキ	18.8	0.0	△ 6.3
	カラマツ	0.0	0.0	50.0
	トドマツ	0.0	25.0	25.0
消費動向	スギ	8.3	0.0	△ 8.3
	ヒノキ	6.3	△ 6.3	0.0
	カラマツ	50.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	△ 25.0	△ 25.0
在庫動向	スギ	△ 25.0	△ 20.0	△ 15.0
	ヒノキ	0.0	△ 12.5	△ 25.0
	カラマツ	△ 50.0	0.0	50.0
	トドマツ	0.0	50.0	50.0

・スギ製材原木の入荷は12月、1月のやや増加が、2月は横ばい。ヒノキは12月の増加が、1月は横ばい、2月は減少。カラマツ及びトドマツは12月の横ばいから、1月、2月は横ばいなし増加。

・スギ及びヒノキ製材原木の消費は12月のやや増加が、1月及び2月はやや減少ないし横ばい。カラマツは12月の増加が、1月、2月は横ばい。トドマツは12月の横ばいが、1月、2月は減少。

・スギ製材原木の在庫は3ヵ月連続して減少。ヒノキは12月の横ばいが、1月、2月は減少。カラマツは12月の減少が、1月は横ばい、2月は増加。トドマツは12月の横ばいから、1月、2月は増加。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	28/12月	29/1月	29/2月
スギ	45.0	12.5	5.0
ヒノキ	18.8	0.0	6.3
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ及びヒノキ製材原木の価格は強含みからやや強含み推移。カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・11月中旬より入荷が上向き傾向になった。12月に凍結が強く入れば運材は好調となる(北海道)。
・民有林材の伐採が本格化。フル生産、原木消費は約5,000m³/月(北海道)。
・冬の出材期、天候の安定で出材増(関東)。
・原木が減るとの話は聞かないので入荷は現状維持。生産量が変わらないので、消費は横ばい。傷みの少ない時期なので多少は在庫を増やす予定(関西)。
・ヒノキは今の所、集まりやすい。但し、天候が崩れると状況変わりそう。消費は12月は横ばい、1月～2月は12月よりは少し減る。12月は在庫は少し増える。1月～2月は天候にもよるが減る見込み(中国)。
・ヒノキは順調に出材があるが、スギは3m柱取り丸太の集荷が難しい。広範囲に集荷している(中国)。
・天候の関係か入荷が少ない。丸太価格が上がるので、無理な集荷を控えている(中国)。
・入荷は天候次第。需要生産共に順調。原木在庫は、2月に機械を入れ替えるため減らす(九州)。
・まだ、天候は良好だが積雪や雨次第では入荷減少の可能性あり。消費の割には入荷が追い付かなくなるのでは(九州)。

(原木価格)

- ・安定確保、価格安定(北海道)。
- ・凍結による出材減で、価格横ばい(関東)。
- ・市場販売量が落ち込んでいるためギリ高。原木高の製品安(関東)。
- ・ヒノキの引合いが増えているので価格上昇の可能性あり(関西)。
- ・ヒノキは天候にもよるが12月はやや下落。1~2月は上昇すると見込む(中国)。
- ・スギ、ヒノキ共3m柱口を中心に上昇、その他は変化少ない(中国)。
- ・原木市場からの価格引き上げの要請がある(中国)。
- ・製品の売行きが悪くなると価格も下がると思う(九州)。
- ・時期的に天候面での不安感からの上昇は見受けられる。下落する面は見られないが、これ以上の高値もちょっと想像できない(製品価格が反映されていないため)(九州)。

28年12月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/12月	29/1月	29/2月
生産動向	スギ	0.0	△ 5.0	△ 10.0
	ヒノキ	0.0	△ 6.3	△ 12.5
	カラマツ	50.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 75.0	△ 50.0
出荷動向	スギ	27.8	27.8	△ 11.1
	ヒノキ	18.8	18.8	△ 12.5
	カラマツ	50.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	△ 75.0	△ 50.0
在庫動向	スギ	△ 33.3	△ 22.2	0.0
	ヒノキ	△ 31.3	△ 18.8	0.0
	カラマツ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 75.0	△ 50.0

・スギ及びヒノキ製材品の生産は12月の横ばいが、1月、2月は減少。カラマツは12月の増加が、1月、2月は横ばい。トドマツは3ヵ月連続して減少。

・スギ及びヒノキ製材品の販売は12月、1月の増加が、2月は減少。カラマツは12月の増加が、1月、2月は横ばい。トドマツは12月の横ばいが、1月、2月は大きく減少。

・スギ及びヒノキ製材品の在庫は12月、1月の減少が、2月は横ばい。カラマツは12月の横ばいが、1月、2月は大きく減少。トドマツは3ヵ月連続して大きく減少。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		28/12月	29/1月	29/2月
スギ	柱角 KD10.5×3	31.8	18.2	11.4
	柱角 KD12×3	13.6	0.0	2.3
	通し柱 12×6	8.3	8.3	0.0
	桁角	5.6	5.6	0.0
	母屋角	11.1	11.1	0.0
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	25.0	0.0	0.0
	ヌキ	7.1	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	10.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	38.9	16.7	△ 5.6
	柱角 KD12×3	11.1	0.0	△ 11.1
	土台角 10.5×4	33.3	16.7	△ 5.6
	土台角 12×4	16.7	0.0	△ 12.5
	通し柱 12×6	8.3	8.3	△ 8.3
	ラミナ	10.0	10.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ柱角、通し柱、桁角、母屋角及び間柱は総じて強含みないしやや強保合で推移。タルキ、ヌキ、平割及びラミナは総じて保合。

・ヒノキ製材品は総じて12月、1月の強含みが、2月はやや弱含みに。

・カラマツ梱包仕組み板及びラミナは3ヵ月連続して横ばい。

・トドマツサンギは3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

- ・12月もパレット受注は良く、多忙が継続(北海道)。
- ・冬場に入り、稼働日数と凍結で生産減。生産に合わせた出荷。出荷に追われる年末は忙しい(北海道)。
- ・スギ材は冬季凍結で生産減、販売好調で出荷増(関東)。
- ・稼働日数並みの生産。荷動きは順調、1月も大きな落込みはなさそう。在庫調整中、年明け以降の荷動き次第。2月はやや低調(関西)。
- ・ヒノキ生産は12月は横ばい、1~2月は少し減る。消費は12月は少し減る、1~2月は12月並み。在庫は12月~2月、横ばいもしくはやや増加(中国)。
- ・スギ、ヒノキ共に注文は順調、残業や土曜日、休日を返上して対応。スギは入荷以上に消費しており在庫がたまらない(中国)。
- ・受注生産比率を引き上げた。出荷は1月までは今のペース、それ以降は落込みそう。安値での売り急ぎを抑えている(中国)。
- ・2月の機械入れ替えのため、生産、出荷は減少(九州)。
- ・一部材の供給不足は相変わらずだが、これ以上の増産は厳しいのでは。KD材に関しては製材が間に合っても乾燥が間に合わないため難しい。多量の増産は出来ないため、大幅な出荷の増加は出来ないが、来年以降の動きがにぶれば落ち着いて来るのでは。(九州)。

(製材品出荷価格動向)

- ・忙しくなっているのは确实、需給バランスとれていれば横ばい(北海道)。
- ・スギ10.5cm柱角は価格、引合い共に上昇。12.0cm柱角は横ばい。ヒノキ12.0cm柱角は引き合いが少なく、価格は横ばい(関東)。
- ・スギ、ヒノキ共に柱角の品薄感は続く(間柱も)、値上げも出ているが唱え程の結果に至らず。ヒノキ土台角、ラミナはビルダー系の動きが好調なだけで末端はそれ程忙しくない印象(関西)。
- ・ヒノキ製品価格は総じて値上げ方向だと思われる。但し、大きな上げはないと予想(中国)。
- ・スギ柱角105mmを中心に品不足から上昇傾向。その他は動きはない。ヒノキ3m、105mm角は特に品不足、つれて徐々に価格も上昇、その他は余り変化なし(中国)。
- ・丸太価格の上昇が、製品価格に反映されない(中国)。
- ・ヒノキは、低い所で横ばいから下落へ(九州)。

28年12月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/12月	29/1月	29/2月
仕入動向	米マツ丸太	100.0	0.0	0.0
	NZラジータ	50.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	0.0	△ 50.0	50.0
	NZラジータ	50.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジータ	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ及びラジータ丸太の仕入れは、12月の増加が、1月、2月は横ばい。

・米マツ丸太の消費は12月の横ばいが、1月は減少、2月は増加。ラジータ丸太は12月の増加が、1月、2月は横ばい。

・米マツ丸太の在庫は、3ヵ月連続して横ばい。ラジータ丸太は12月の横ばいが、1月、2月は増加。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	28/12月	29/1月	29/2月
米マツ丸太	50.0	100.0	0.0
NZラジータ丸太	0.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の購入価格は12月、1月の強含みが、2月は横ばい。ラジータ丸太は12月の保含みが、1月、2月は強含みに。

モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・ラジータ丸太は、年末は需要期のため入荷、出荷増（中国）。

(原木価格動向)

- ・船賃の上昇、為替円安のため価格UP（中国）。

28年12月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/12月	29/1月	29/2月
生産動向	米マツ製材品	0.0	△ 50.0	50.0
	NZラジアータ製材品	50.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	△ 50.0	△ 50.0	△ 100.0
	NZラジアータ製材品	50.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	△ 100.0	△ 50.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の仕入れは12月の横ばいが、1月は減少、2月は増加。ラジアータ製材品は12月の増加が、1月、2月は横ばい。

・米マツ製材品の出荷は3ヵ月連続して減少。ラジアータ製材品は12月の増加が、1月、2月は横ばい。

・米マツ製材品の在庫は12月、1月の減少が、2月は横ばい。ラジアータ製材品は3ヵ月連続して横ばい。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		28/12月	29/1月	29/2月
米マツ平角		0.0	0.0	0.0
米マツ正角		50.0	0.0	0.0
米マツ小割		0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		0.0	50.0	50.0
NZ梱包材(割角)		0.0	50.0	50.0
NZ土木用材		0.0	0.0	0.0
その他		—	—	—

・米マツ平角及び小割の出荷価格は3ヵ月連続して横ばい。小角は強保合で推移。

・NZ梱包材(割板・割角)の出荷価格は12月の保合いから、1月、2月は強含み。NZ土木用材は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

- ・ラジアータ製材品は、年末は需要期のため出荷増（中国）

(製材品出荷価格動向)

- ・ラジアータ製材品は、1月より値上げを依頼（中国）。